

Q17 時や場をわきまえず，動き回る子どもには，どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

授業中でも離席して歩き回ったり，着席しているときも，落ち着きがなく常に身体を動かしていたり，きょろきょろ見回したりしている。

ちょっとした物音や見えたものに興味や関心が移りやすく，学習や遊びに集中できない。

思い立つと結果を考えず，すぐに行動する。

状態の理解のポイント

- ・ 感情のコントロールが難しい。
(多動性や衝動性の一つの状態)
- ・ 行動の結果を予想したり見通したりすることが難しい。
- ・ 直接関係のない刺激に反応してしまうなど注意を持続することが難しい。
- ・ その場の状況判断・理解ができない。

考えられる対応

窓側，廊下側の気が散りやすい席を避け，教師が声を掛けやすい席にする。

unnecessaryなものを片付けたり，カーテンをかけたりするなど，学習環境を整備する。

声を掛けたり，肩に触れたりして注意を引いてから話すようにする。

黒板を消す，プリントを配る，職員室へのお使いなど，授業中，離席が必要な活動を取り入れ，依頼する。

本人が望んで集中したいときは，教室に衝立などでコーナーをつくり活用する。(図122)

注意を集中するために必要な場合は，ある物をもてあそぶことも許可する。

挙手する，先生を呼ぶ，「これから をします。」と言うようにするなど，行動する前に考える習慣を付ける。(図123)

活動の見通しがもてるように流れを文字カードや絵カードで提示する。

危険につながること(火，道路，刃物等)については，機会あるごとに繰り返し教示する。

広い場所での活動のとき，フープ(輪)を置いたり，テープをはったり，地面に目印を付けたりして，自分の居場所を分かるようにする。(図124)

家庭での取組等を参考にするなど連携を密にする。



図122 環境の設定



図123 行動する前の合図



図124 フープの活用